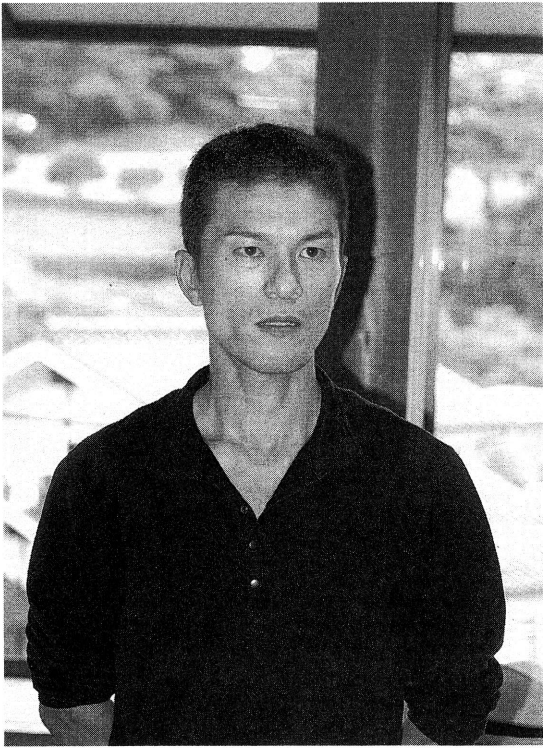


死をもって原発を告発した父の後を継ぎ

「父に負けない農家に」

福島 須賀川民商 樽川 和也さん (36) 農業

「オヤジに負けない農家になりたい」。震災から6カ月、福島県須賀川市でコメやキャベツ、キュウリなどを
「オヤジに負けない農家になりた」。 (36) の新たな決意で 震災から約2週間たつた3月24日は、和也
す。8月20日、同市内で結成された須賀川民商青年部の副部長にも
就任しました。 震災から約2週間たつた3月24日は、和也さんにとって忘れられない一日です。篤農家



亡き父の後を継ぎ頑張る樽川和也さん

て毎日のようにメールで報告していましたけどね」

いま和也さんに残されたのは、久志さんが何十年にわたって毎日記してきた膨大な「農作業ノート」。除草剤をいつまくか、何をどのくらい入れるか、コメの種もみを水にひたすのは何時間か…。

「今も分からないことがあればオヤジのノートを開く」と話す和也さん。独りになってあらためて「オヤジの仕事の手際の良さ」を痛感しています。

6年前から農業を継ぎ、久志さんをサポーターしてきた和也さん。昨年は久志さんが入院したこともあって、初めて一人で農作業をこなしました。「入院中もオヤジに作業につい

3・11以降の半年間で、農家としての収入はキュウリ販売で得た15万円だけ。今、生活の見通しとともにコメへの放射能汚染の広がりも最も気になります。それでも「農業は一生をかける仕事」だ

と切り切る和也さん。新しい農業技術に挑戦しています。そして、東電に対し廃棄されたキャベツと父親を自殺に追い込んだ責任を追及しようと、民商とともに損害賠償を求め



8月20日に結成された須賀川民商青年部。仲間とともに東電に対し損害賠償を求めたたかう樽川さん（前列左から3人目）